

CONTENTS

特別寄稿 中野香織さん	1
「国産ジェット機への挑戦」	2~3
三菱航空機社長・戸田信雄さん	
「こんな人生歩いています」	4~5
第29回卒業生の手記特集	
海外活動だより・上海総領事・横井裕さん	6
部活回想記・サッカー部・平井昌也さん	
追悼抄・「竹中さんを偲ぶ」・水間英光さん	7
リレーコラム・「100周年へ 育英基金を」	
神通会からのお知らせ	8

神通会報



Special Column 特別寄稿

エレガンスとダンディズムの源流

中野 香織

エッセイスト・服飾史家（第33回卒）



毎日通学していました。これで忍耐力が鍛えられないはずがありません。

ひとコマ、ひとコマの授業でも、「がまんの限界値」を引き伸ばされていました。みつちりと充実した授業をする先生方が全教科に揃っていて、今もあざやかに各先生の口調や板書の字体が思い浮かぶほどですが、とりわけ、「がまん力」を磨かれたのは数学と物理でした。

ひとつの大問をあらゆる角度からとことん、考えさせられるのです。ぐじやぐ

じやと検討して、もうこれ以上ダメ、となつた終了5分前、先生が黒板いっぱいに、世にもシンプルで美しい解法を書いていき、クラスを感動のため息で満たすのです。がまんの限界を突き抜けたその先に見るあの「エレガント」である日も、暗灰色の雲から雪が落ちてくる日も、自転車をこぎ、呉羽山を越える日も、自転車をこぎ、呉羽山を越える（切り通しとはいえない）、神通川を渡つて、

間だつたのです。

なかの かおり

同期の女性から、今年のお正月にこんなメールをいただきました。「卒業文集にカオリちゃんが書いた文を覚えてるよ。『がまんがまん、がまんがだいじ』って」

もう28年も前のこと。本人は、まったく覚えていません。

でも、そのフレーズが引き金になつて、当時のことがあさしつつ、思い出されてきました。たしかに、中部高校時代は、ひたすら「がまんの限界値」を引き上げる日々であつたように思えてきました。

なんといっても、「山を越え川を渡り」の自転車通学を3年間やり通したのです。刺すような北風にみぞれが混じる日も、暗灰色の雲から雪が落ちてくる日も、自転車をこぎ、呉羽山を越える（切り通しとはいえない）、神通川を渡つて、

でも、そのフレーズが引き金になつて、当時のことがあさしつつ、思い出されてきました。たしかに、中部高校時代は、ひたすら「がまんの限界値」を引き上げる日々であつたように思えてきました。

なんといつても、「山を越え川を渡り」の自転車通学を3年間やり通したのです。刺すような北風にみぞれが混じる日も、暗灰色の雲から雪が落ちてくる日も、自転車をこぎ、呉羽山を越える（切り通しとはいえない）、神通川を渡つて、

なかの かおり
エッセイスト・服飾史家。東京大学文学部・教育学部卒業。東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得。英國ケンブリッジ大学客員研究员などを経て、文筆業に。新聞・雑誌・ウェブマガジン・携帯サイトなど多媒體において多くの連載記事を執筆。著書に「愛されるモード」（中央公論新社）、「ダンディズムの系譜」（着るものがない！）「モードの方程式」（以上、新潮社）「スーツの神話」（文春新書）など。

2008年4月より明治大学特任教授。

公式HP <http://www.kaori-nakano.com>



神通中学校



富山中部高等学校同窓会